



# 名勝 小金井(サクラ) 指定範囲

武蔵野の末野の草を分け行きて  
果てなき花を今日みづるかな



大田南畝 (1749~1823)  
江戸期を代表する天才文人  
小金井観桜ののち遠桜山人と号す

## 花観井金

『金井観花詩歌図巻』より  
有馬純佑の題字



花の小金井さくららの名所 キタシヨ  
昔しや荒野の武蔵野原も  
今じや東京の奥座敷  
サッサ 小金井 花どころ



『小金井音頭』レコード

### ⑤ 小金井桜樹碑 (海岸寺)

文化7年(1810)に建立。大久保狭南による碑文には、武蔵野新田開発時代の元文2年(1637)に、幕命によって川崎平右衛門定孝が植えたこととし、植栽の目的として土手の保護、観賞用、夏の遮光、上水の浄化、桜の解毒作用といった実利目的を挙げています。  
この碑文は、その後多くの紀行文や地誌で紹介され、小金井桜の起源の典拠として引用されました。

実に元文二年丁巳の歳也  
寛文元年丁巳己歳也



### ⑦ 名勝小金井桜 標柱

大正13年の国の名勝指定を受けて、東京市が小金井桜の中心地である小金井橋に建立



⑧ 小金井橋 (石橋)



### ⑨ 御成の松 (絵はがき)

天保15年(1844)、第十三代將軍家定(当時世継ぎ)一行が花見に訪れ、ここに御座所を設けて花見の宴を催しました。記念に里人が御座所跡に一本の黒松を植えました。惜しくも平成6年に枯れました。

### ⑪ 川崎平右衛門供養塔 (真蔵院)

武蔵野新田の生みの親、川崎平右衛門定孝(1694~1767)の供養塔。元文3年(1738)の武蔵野新田の凶作にあたり、多摩郡押立村(現府中市)の名主から幕府の新田世話役に取り立てられ、武蔵野新田82か村の経営に大きな功績を残しました。



花見時の五日市街道と新田農家 (絵はがき)



⑭ 関野橋 (絵はがき)



③ 茜屋橋 (絵はがき)



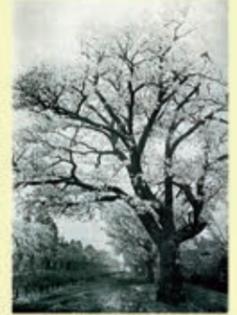
### ④ 小金井分水跡

小金井分水は、玉川上水の水を小金井村方面に引いたもので、元禄9年(1696)頃に引かれました。江戸時代には玉川上水から直接、取水していましたが、明治3年(1870)の分水口統合により、砂川(深大寺)用水から分水されることになりました。ここから南下し、山王稲穂神社付近の築樋にまで繋がっていました。

春風の吹きまにまに雪と散る  
桜の花のおもしろきかな  
明治天皇御製

### ⑬ 行幸松・行幸松碑

行幸松は明治16年(1883)4月23日に明治天皇が、乗馬で花見に来られた栄誉を伝えるために海岸寺門前の御座所跡に植えられました。植樹後、19年を経た明治35年に、海岸寺は由来を記した碑を建立しました。



⑩ 日の出の桜 (三好學撮影)  
北岸にあった名木



⑫ 富士見桜 (絵はがき)  
南岸にあった老巨木



⑬ 小金井市文化財センター (旧浴恩館)  
下村湖人が小説『次郎物語』の構想を練った浴恩館を改修した小金井市の歴史・民俗資料の展示施設。小金井桜の資料もここで収集・保存しています。

さくら  
折遍可ら須  
槐字道人

### ⑮ 桜樹接種碑

幕末、上水北岸の桜の補植を担当した田無村名主下田半兵衛富宅が嘉永4年(1851)に関野橋下流の北岸に造立しました。碑面には「さくら折るべからず 槐字道人」とあり、裏面に補植の経緯を記した桜樹接種記が刻まれています。



⑯ 三代歌川広重『小金井堤乃満花』  
明治初めの梶野橋に見立てた錦絵



⑰ 名勝境界石  
名勝小金井(サクラ)の東端を示す新田2つの境界石



甲武鉄道〔現JR中央線〕営業開始の広告より  
小金井橋 境停車場より北五六町玉川上水堤の兩岸にあり東の境村に始り西の小川村に至る此間二里餘櫻樹にて其數萬餘株あり及公欄の候に兩岸只真白ふてさながら雲を連なるかど怪しむる、ばかり實に關東第一の花見所といふべし  
東京より此地へ遊ばんとするに内藤新留まで此汽車に乗り境の停車場まで下るべし然らば北五六町より上水堤に出づこより櫻花あるより漸次花を眺て小金井の西に至り歸途に喜平橋より左より十三町を往き國分寺停車場まで乗車するを便なりとす或はまた國分寺停車場まで下り喜平橋を出て花を見つゝ櫻橋を來り境停車場にて乗車し歸途も亦便なり

③ 茜屋橋  
新小金井街道  
中大附屬高

都立武蔵高・中